

令和8年10月13日
庶務課

令和8年度 第2回教育推進プラン点検・評価委員会
議事概要

1 日時	令和8年7月8日（水）午後6時～午後7時45分										
2 場所	オンライン開催										
3 出席者	【委員】 若林彰（有明教育芸術短期大学学長）前島正明（帝京大学大学院教職研究科特任教授）、長田智之（公募区民）、長谷川恵理（公募区民）、葛西利昭（浅間堅川小学校長）、塩野恵（第二南砂中学校長）、芦田敦子（第二亀戸幼稚園長）、沼田明（小学校PTA連合会会長）、持川雅憲（中学校PTA連合会会長）、田中はるか（幼稚園PTA連合会会長） 【理事者】 本多教育長、青柳教育委員会事務局次長、瀧澤庶務課長、松崎学校施設課長、瀧川学務課長、金指指導室長、阿久津教育支援課長、野沢地域教育課長、吉木江東図書館長										
4 欠席者	なし										
5 点検・評価項目	<table><tr><td>テーマ3 環境</td><td>施策6 「施設の整備・充実」</td></tr><tr><td></td><td>施策7 「安全安心・居場所づくり」</td></tr><tr><td></td><td>施策8 「地域・家庭」</td></tr><tr><td></td><td>施策9 「学校・教員」</td></tr><tr><td>テーマ4 つながり</td><td>施策10 「図書館・大学・企業等」</td></tr></table>	テーマ3 環境	施策6 「施設の整備・充実」		施策7 「安全安心・居場所づくり」		施策8 「地域・家庭」		施策9 「学校・教員」	テーマ4 つながり	施策10 「図書館・大学・企業等」
テーマ3 環境	施策6 「施設の整備・充実」										
	施策7 「安全安心・居場所づくり」										
	施策8 「地域・家庭」										
	施策9 「学校・教員」										
テーマ4 つながり	施策10 「図書館・大学・企業等」										
6 意見・質疑	【テーマ3】 (委員) 東雲小学校は現在改修中であり、こどもたちは南砂仮校舎へスクールバス通学をしている状況であるが、常に学校施設課と連携を図り、課題を解決し日々アップデートしていただいている。ぜひ、この経験を、東雲メソッドとして継承していただけることを望む。 改修工事の内容が、事前に保護者やPTAに示されなかった。昨今、住環境や生活様式が変化し、トイレや水洗の問題がある。また、着替えスペースの確保など課題があるため、柔軟に対応してほしいと指摘したが、基準があるから対応できないと言われた。今後も各校で改修改築工事を控えていると思うが、早い段階での事前周知徹底と児童や保護者の声を吸い上げる努力をしていただきたい。										

(続)	(理事者) 1つ目のスクールバスについては、課題が日々あるため、定例会議を行い、委託業者、区、学校間で情報共有を図っている。挙げた課題を共有することで解決策を見出せることができるため、次の長寿命化改修に生かし取り組んでいきたい。 2つ目の、保護者や地域の方の声を設計に反映できていないのではないかという点については、通常は、改修の設計委託の段階で、学校に今後の設計方針を確認した上で、学校を通じて保護者や生徒、地域の方からの声などを吸い上げ改修に反映していくことになっている。ただし、物理的にできないところ、法的な制限があるところもある。まずは、PTAをはじめ保護者や子どもたちの声、現在の改善点などを今後の設計に反映できるように取り組んでいきたい。 (委員) 木質化された改修された学校、教室はとても綺麗ですごくいいと思っているので、これからも進めていただきたい。その工事について、工事の締結が終わってから学校にスケジュールが示されるようだが、当施設を利用している団体などに情報がおりてくるのがとても遅い。実際に、7月1日に契約締結された旨の連絡が先週あり、もう来週には施設は使えませんといった連絡がある。工事することは決まっているのだから、スケジュールは事前に連絡したほうがいいのかと思うが、その点いかがか。 (理事者) 連絡が遅れたことについては申し訳ない。年度当初に該当する学校には、今年度の工事予定の案内をさせていただいている。しかし、昨今の入札の状況などから、不調になると、業者が決まった後から、保護者の方を含めて正確なスケジュールをお伝えすることになる。少々やむを得ないということではあるが、今後は、年度当初に工事予定をできるだけ学校を通じて周知できるように努めて参りたい。 (委員) 色々な調整の場面で、PTAが関わっている部分が多い。今回の東雲小の件も、校長と副校長、PTA会長が尽力されていると聞いている。そのPTAが今、なかなかない。または、活動があまりできていない学校も多い。連絡調整の場面で、もう少し教育委員会の方でやっていかなければならないと思うが、連携については今後どう考えているか。
------------	--

	(理事者) いただいたご意見は非常に切実であり大事なことでしたのでしっかり対応したい。今までのやり方だと保護者まで伝わらなかったことや、PTAがない現状に対してしっかりと連携していく。 (委員) 学校プールのあり方の見直しに係る検討について資料に記載されていたが、猛暑日の増加に伴う熱中症対策という意味では、運動会のあり方についても同様に問題だと思う。対策としてテントを設営するなど、こどもの安全を守っていかなければならない。そのテントを、PTAで用意するのか、どこかでレンタルするのか、PTAにのしかかっている状況がある。PTAだけではなくて、教育委員会や行政の方でも対策を考えていただきたい。 (理事者) 昨今の猛暑への暑さ対策でハード面からできることは、例えば、校庭の全天候舗装ゴムチップを表面温度が上がりづらい仕上げ材に施すこと、ミストシャワーを部分的に設置すること、校庭の一部に庇などを持ち出し日陰部分を作ることなどが挙げられる。改築の物件に対しても建物配置によって、校庭に日陰部分を作るなどに取り組んでいる。 (理事者) 教育内容に関わるところでもあるため併せて考えていかなければならないと思っている。小中学校校長が参加しているが、学校で運動会の日程をずらしたり、学校ごとに場所を変えたりと工夫はしている。そもそも運動会をやらなきゃいけないか問題もありどう考えていくか。現場と我々の方で、総合的に考えてやっていきたい。 (理事者) 本校の場合は22学級あるためテントは必要分を一昨年までは借りていた。近隣小学校、近隣の中学校さんからお借りして22張りを用意した経緯がある。先ほど教育長教育長からも話されていたが、そもそも、5月や6月にやる必要があるのかという問題もあり、本校は思い切って舵を切り、運動会は11月に実施している。11月にしますと熱中症対策等々についてはむしろ気にしなくていい。去年の11月は寒かったため、1週間前の方にずらしたということがある。過去様々な対応をしている。今年はそんなに暑くはなかったから、来年は大丈夫という安易な考えにはしらず、こどもたちのために何が一番いいのかをPTAと適宜協議しながらやっていきたい。
--	--

	(理事者) 中学校も小学校と同様である。プログラムの短縮、時期を変えるなど対応している。また、熱中症対策に関しては、部活動等の面で指導室から指導いただいている。そこを含めて春の運動会は、おかげさまで事故、大きなけが等はなかった。学校によっては、施設を借りるなど室内で運動会を実施する工夫も見られる。テントに関しても、お互いに近隣の小学校に借りたり、貸したりと連携を図っている。本校に関しては、PTAの皆様にもいろいろと助けていただいて、当日のテント張り等も、お力になっていただき大変ありがたい。 (理事者) 幼稚園では、小中学校に比べ園児数が大変少なくなっているため、各園で工夫をして近隣の小中学校の体育館を借りる、秋などの遅い時期に行う工夫をしている。幼児はどうしても入園当初、並んで歩くということが難しく、みんなと一緒に行動するというのが発達的に難しいところはあるため、春の開催というのは以前からやっていない。 【テーマ4】 (委員) 小学3年生以上のこうとう電子図書館の活用実績をお聞かせいただきたい。 (理事者) 電子図書館の活用実績は、利用者の数をお示しさせていただくと、令和6年度の実績で、貸し出し件数は5万3,346件、閲覧回数は41万件である。専用IDを活用した実績については、7割が専用IDを使っていた。したがって、小学3年生以上の方にIDを配布した効果というのは、一定程度得られていると認識している。 (委員) その状況下で、読書を楽しむ子供たちが減っていることに対しては、今後、どう増やしていくのか教えていただきたい。 (理事者) 読書率に関しては、小学校2年生は下がっているが、小学校5年生と中学校2年生は上がっている。一方で、本を読むのが好きという方が5年前に比べて減っている。アンケート結果では、図書館にもっと色々な本があれば良いという意見もいただいている。電子図書館についても、たくさんのコンテンツがあったほうが使いやすいという意見をいただいている。区としては、読書環境の
--	---

	整備、蔵書のクオリティを上げられるようにしているが、大事な のは、どこで本を読むか、どこで本を手に入れているのかという ところである。その点を改めて確認したところ、学校の現場であ ることがわかった。よって、公立図書館としては、図書館の役割 である蔵書の拡大、おはなし会の回数を上げていくことはもちろ んだが、学校の先生方と協力して、学校の授業に図書館を役立て ていただき、学校と図書館が連携して蔵書の充実を図っていくこ となどに目を向けるべきではないかと考えている。 (委員) 深川第五中学校を例にすると、昨年蔵書が増え、その結果、こど もたちも、本を読むのが楽しいという声があった。電子図書館な ど、区で色々頑張っているところもあると思うので、学校の、こ どもたちの声が反映できる形ができればいいと思う。 (委員) 地域や家庭との連携協働について、現行の学習指導要領でも、社 会に開かれた教育課程の一環で、学校運営協議会の中で熟議を し、協働しながらより良い学校を作る狙いがあると思っている。 その中心は、コミュニティ・スクールや、地域学校協働本部の活 動であるが、今、どのような状況で進められているのか。或い は、地域学校協働本部の活動はどうなっているのかを教えていた だきたい。あと、学校運営協議会の制度推進検討委員会がある が、どのようなことを検討してどう活性化していくのか、どう図 られているのかを教えていただきたい。もう1点、働き方改革が 言われてもう久しいが、推進状況はどうか。特に中学校の部 活動の地域移行、特に休日について進められていると思うが、進 捗状況も教えていただきたい。 (理事者) コミュニティ・スクールの導入校は、令和8年の時点では46校 であり率にすると66%。地域コミュニティ・スクールに関して は、学校運営協議会の中で学校と地域の中で検討を行い、活動し ているところである。制度運営検討委員会を年3回開催しており、 導入方法や広報などの検討を進めている。また、今後の取り 組みとして、令和9年度や令和10年度の導入の状況などを各校 に確認をしているところであり、導入意向があった学校について は、地域教育課から、学校評議協議会などで制度の説明などを行 っている。 (理事者) 部活動の状況は、江東区においては、今年の10月から、全24
--	--

	校、72クラブ活動を実施していく。そのうち、2クラブについては、平日も実施する予定である。 (委員) テーマ4のつながりで図書館・大学・企業等とあるが、企業等に関しての計画があるとか、取り組みがあればお聞かせいただきたい。 (理事者) 報告書案の28ページをご参照いただきたい。取組56で、区内企業と連携した出前授業について触れている。例えば区内プロスポーツのチームとしてアルバルク東京、また、バスケットボールTUBCといったプロバスケットボールチームがあるが、そちらの方からの出前授業、いわゆる具体的なバスケットボールの授業だけではなく、心の授業、いじめ等に対する授業を行っている。また、それ以外にもプロスポーツでいうと、ラグビーの清水建設江東ブルーシャークス、また、それぞれのプロチームなど追加出前授業というものをしている。 (委員) 今回の委員会では、江東区立図書館に関することがメインであったが、社会人や企業に勤めている人向けに図書館を使いやすくするとかいうのができたらと思っている。例えば、海外の公立図書館であれば予約していれば24時間受け取りができる事例がある。豊洲の図書館は予約棚が入口の手前にあるため、予約していれば夜遅くまで借りることができるなどの、検討をしていただきたい。 (理事者) 平成の終わりごろから開館時間を延ばしてはいる。一方でおっしゃる通り、24時間受け取りサービスについても、ご意見がないわけではない。他自治体での事例もあるため、状況を見極めながら検討していきたい。 (委員) テーマ4の施策8、9について、状況を知っていただきたいところがある。教育委員会のバックアップのもと幼稚園の保護者に対しても研修会の充実が図られていて大変ありがたいと思っているが、今の保護者の風潮として、長期の研修活動が敬遠されがちである。PTA活動も、1年間という長期だと人が集まらないが、単発のボランティアであれば人が集まるという傾向がある。報告書中の成果指標の延べ参加人数が減少していることから、窓口を
--	---

	広くするという意味では単発の研修を増やすことも良いのではないかと考える。もう1点は、施策9にあるが、小学校ではエデュケーション・アシスタントなどの人材支援が手厚くなっており、小学生の保護者としても、とてもありがたいと感じている一方で、幼稚園については、人材支援が足りないところが多いのではないかと実感している。幼稚園には、個別支援である学習支援員のみならず、エデュケーション・アシスタントのような人材配置があって良いと思っている。幼稚園での学びは遊びであるため、遊びのサポートという点では、見守りだけではなく、適切なタイミングでの声かけや環境構成など教師の専門性が不可欠である。有資格者である学びスタンダード強化講師やエデュケーション・アシスタントという枠で、幼稚園にも人材支援が手厚くなることを望む。 (理事者) 研修は大きく2つ分けている。複数回にわたって行う研修と講演会のように単発で行う研修がある。研修の効果ということから考えると、やはり継続して複数回行う方が研修によって得る知識、体験は多くなる。1回の講演会に受講者をたくさん集めて研修、意識啓発を行うことは、有効な方法の一つであると認識している。研修のあり方としては、対象や講座のテーマを見極めながら、単発で行うものや複数回行うものを組み合わせて行っていきたい。コロナ禍の影響で、参加人数が減ってしまった状況から戻りきってない状況を念頭に置きながら、よりよい研修環境を考えていかなければならないと思っている。 (理事者) エデュケーション・アシスタントは確かに小学校のほうで今配置ができている状況である。幼稚園については、園長先生方からもそういったお声をいただいているため、必要に応じて総合的に考えていきたい。 以上
--	--